

パンフレット「7つの銚子ものがたり」正誤表

本書に下記の通り誤りがございました。お詫びして訂正いたします。

ページ	行数	訂正前	修正後
P2	3 行目	利根川東遷後 江戸で幕府を開府し、	江戸で幕府を開き、
P4	5 行目	「海夫」と呼ばれる「香取の海」で漁を生業とする人々	「海夫」と呼ばれる「香取の海」で漁などを生業とする人々 ※「海夫注文」の「海夫」の生業は、漁労だけではなく、塩作りや舟を使用した運送も行っていました。
		余山貝塚	(追記) なお、余山貝塚は日本有数の貝輪の生産拠点として考えられています。
	1 行目	川口神社 川口神社は、昔から利根川河口を出入りする漁船の守り神としての拠り所となっていました。	川口神社の祭神は海や港の神として、航海の安全と漁業の繁栄を司る神様です。
	4 行目	旧西廣家住宅（次郎吉） 漁業だけではなく、	漁だけでなく、
	4 行目	銚子萬祝式大漁旗 通常浸水式に併せて	通常浸水式に合わせて
P5	3 行目	滑川家住宅長屋門 名主として海運業に従事	名主として水運業等に従事
	5 行目	天明年間	天保年間
		庄川左衛門公徳碑	庄川左衛門頌徳碑 ※P18 地図も修正しました。 ※画像が「旧陣屋跡碑」になっていました。
P8		渡海神社の極相林	
	1 行目	銚子の森は、タブやスダジイが	銚子の森は、タブノキやスダジイが
		松岸河岸	
	1 行目	木下茶船で利根川を下降して、	木下茶船で利根川を下り、
P9		木国会碑	紀國人移住碑
	6 行目	旧新生貨物駅跡 さらに、中央市場まで	さらに、中央魚市場まで ※1932年に第二漁船渠後背地に建設された魚市場が、1941年内浜町に開設された内浜魚市場と区別するために「中央魚市場」と呼ばれるようになりました。(続銚子市史Ⅲ)

	猿田神社 下総国学を発展させた平田篤胤・鉄胤は下総遊歴で多くの門人を受け入れ、その時の資料が猿田神社に残っています。	807年に社殿が建立され、猿田彦大神、天鈿女命、菊理媛命を祀り、創建以来、源頼朝や足利氏、千葉氏など多くの武将の寄進をうけてきました。また、平田篤胤は銚子の文化人らの案内で参詣し、その時の資料が残っています。
P10	旧公正会館	旧公正會館 ※P18 地図も修正しました。
P12	6 行目 銚子石の風景 ～にある 石積みの石垣 は、	～にある 石垣 は、
	2 行目 滑川家住宅主屋 椿領や銚子領を中心とした城米運送を幕府から任されていました。	滑川家住宅 当時の海上郡周辺の村々の年貢米輸送に携わっていました。 ※1709年『下総国海上郡野尻村差出シ帳』(滑川家文書)で、「椿領・銚子領御城米御運送仕候、此外御給所方御年貢米運送仕候」とあり、「椿領・銚子領」と表記しました。
	3 行目 白幡神社の庚申塔 「奥州仙基石之巻」	「奥州仙臺（台）石之巻」
	5 行目 滑川 を 横断する	を 縦断する ※工事は途中で中止となりました。
P14	7 行目 これは、 周りの船 が嵐で転覆しそうになつても、安易に助けの手を出し、災難を広めてしまわないよう自分たちを戒める言葉でした。	これは、 周りの船 が転覆しそうになつても手を出さず、自分の船は自分で守れ、つまり「自分の身や命は自分で守れ」ということです。
	千人塚 乗組員の 慰靈 を 供養 しています。	乗組員を 供養 しています。
P15	3 行目 飯沼観音 本堂で、坂東三十三観音霊場の第二十七番札所	観音堂で、坂東三十三観音霊場第二十七番札所
	2 行目 海上八幡宮 先勝祈願	戦勝祈願
	6 行目 等覚寺 室町時代から江戸時代	安土・桃山時代から江戸時代
	ページ内に使用している参勤交代の挿図については、銚子から参勤交代に出る大名はいないので、適切ではないというご指摘をいただきました。	
P17	松岸海岸	松岸 河岸

P18		磯角商店	磯角商店
-----	--	-------------	-------------

※行数の欄が空欄の場合は、文化財等の名称の部分になります。